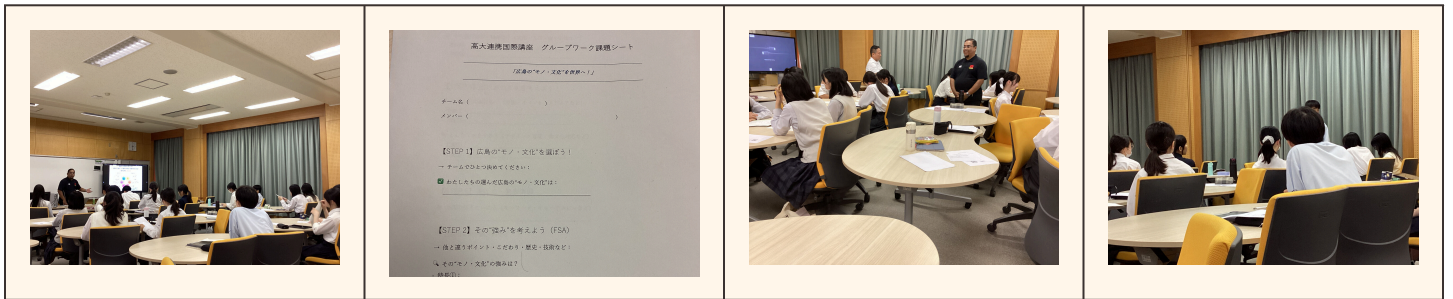


令和7年度 高大連携国際講座



7月28日（月）、広島市立大学と連携し、市立高等学校の生徒対象の高大連携国際講座が本校にて開催され、本校からは7名の生徒が参加しました。

講師に広島市立大学の准教授、アリフ ヌルハイザル アザム氏をお招きし、『国境を超える企業の活動』をテーマに、日本企業がどのように海外に進出し、現地の文化や生活に合わせて工夫しているのか学びました。企業の事例を通じて、国際ビジネスの基本や異文化対応の重要性を学び、後半はグループワーク形式で、日本の商品や文化をどの国にどう届けるかを考え、発表しました。他校の生徒とも交流しながら、世界に向け視野を広げることができる有意義な講座でした。



参加した本校の生徒の感想

- 企業が海外進出する際に、どのような工夫を行っているのか、みんなで考えることができ、考えを共有することでマーケティングの可能性などを感じることができた。また、文化の隔たりを越えることで自分の地元と世界がつながることができること知り、すごいと思った。（1年女子）
- 企業のあり方から海外へ進出する利点や問題点を知ることができ、普段知ることができない起業での大切なことを学ぶ良い機会となった。また、広島の地域の特性を生かした製品や文化の発信の方法を考えることで広島の商品・文化の新たな可能性やその問題点を知ることができ、将来日本の海外を支える一歩になることを学べた。今回学んだことを将来のキャリアで活かしたい。（1年女子）
- 価値について、いろんな方向から学ぶことができた。今、世界から日本は何を注目されているのか、何を発信すればよいのか考えるとても良い機会になった。また、オタフクの経営理念を聞いて「自分の商品を売り出すのではなく、他の商品を主に考える」ということを知り、驚いた。これから、そういう視点を持って生活していこうと思う。（1年女子）
- オタフクという身近な企業が海外に進出していることに驚いた。物でなく文化を売る姿勢や直接お客さんと会ってニーズに応える開発型営業など他の企業とは違う点が多く地元企業として誇らしく思った。私は海外との交流に興味を持っているが、そのためにはまず異文化理解力が必要だと思った。これは海外を目指す企業にとっても重要なことなので、今回の講座の内容を是非将来に役立てたいと思った。（2年女子）
- 企業が海外に進出することの難しさや、強みを活かすことの大切さについて学ぶことができた。今日学んだことをこれからの進路に役立てていきたいと思った。（2年女子）
- 経営という面で日本と海外のつながりについて学ぶことができ、また自分の将来に生かすことができることがたくさんあって参加して良かった。グループワークで楽しく学べることができた。（2年女子）